

高鍋町の 先賢と文化財



アカウミガメ
堀の内海岸～下永谷海岸
昭和55年（1980年）
宮崎県指定天然記念物

高鍋町の堀の内海岸から下永谷海岸、そして、産卵のために上陸してくるアカウミガメは、昭和55年（1980年）宮崎県の天然記念物に指定されました。温帯から亜熱帯にかけての海洋に生息するアカウミガメは他のウミガメと比べて頭部が大きく、口は鳥のくちばしのような形をしています。甲羅が赤いことからこの名がついたといわれています。

アカウミガメ及びその産卵地

食性は動物食傾向の強い雑食で、貝類、甲殻類などです。前足を使って海底の砂泥を舞い上げ、出てきた獲物を食べます。

南日本各地の海岸では、毎年アカウミガメが上陸し、産卵しています。普段アカウミガメは海を泳いでいますが、産卵時には夏の夜に砂浜を目指し、上陸すると砂をかき出して穴を掘り、そこにピンポン玉のような白い卵を産みます。



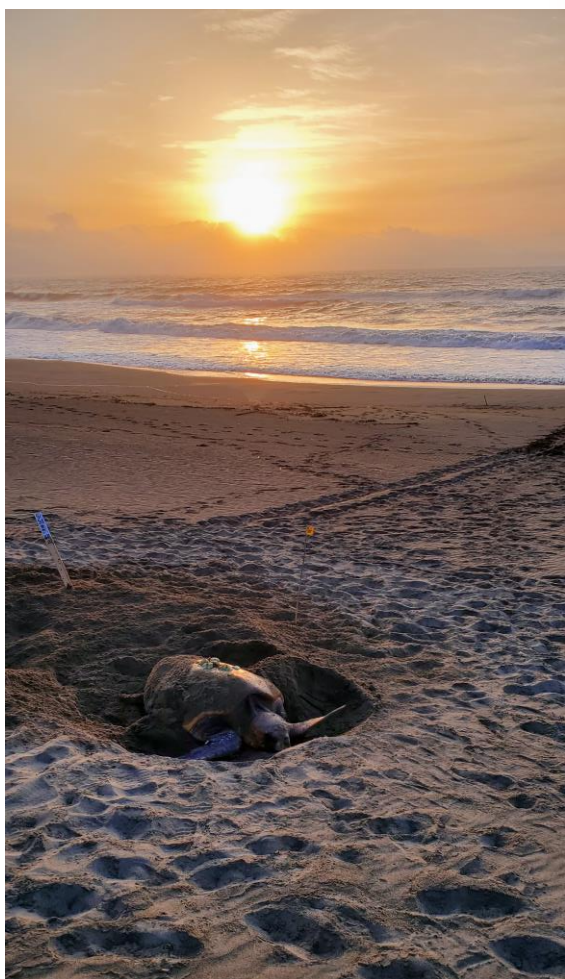
アカウミガメの足跡



子ガメは海を目指します

1回の産卵で100個以上、多い時には150個以上産むこともあります。産卵を終えたと掘った砂をもどして卵に覆い被せ、海に帰っていきます。

早ければ産卵後40日あまり、遅くても80日ほどでふ化し、子ガメは砂からはい出して懸命に海をめざします。



アカウミガメの産卵は5月下旬～8月中旬、ふ化は7月～9月ごろにみられ、どちらも夜間に行われます。現地に観察に行かれる方は次の点を十分にご注意ください。産卵・ふ化をあたたく見守ってあげてください。

●**車で海岸に乗り入れない。**アカウミガメや卵が踏み潰されてしまったり、わだちにより進路が阻害されてしまいます。

●**大きな声で騒がない。**アカウミガメが大きな物音に危険を感じて、卵を産まずに海に帰ってしまいます。

●**ライト等で照らさない。**ふ化した子ガメが迷走して体力を消耗し、海へたどり着けなくなります。

◎ボランティア会員の募集について

アカウミガメの保護活動をご一緒いただける方を募集しています。

○活動期間：5月から9月の午前5時から1時間程度
(上陸・産卵の状況によって前後します)

○活動場所：堀の内海岸～下永谷海岸(約2km)

○内容：アカウミガメの産卵地巡視および産卵状況調査活動

○対象者：高鍋町内に住所を有し、アカウミガメの調査活動に関心のある方

○お問合せ先：高鍋町教育委員会 社会教育課 文化係

電話 0983・23・3326

アカウミガメ及びその産卵地

アカウミガメにとって砂浜は、種を保存していく上で重要であることはいまでもありません。しかし、護岸工事や自然災害の影響を受けて砂浜流出が進行しており、また、漁業による混獲、レジ袋やシートなどの海岸への投棄等さまざまな理由により、アカウミガメの減少が懸念されております。

環境省のレッドデータブックでは、絶滅危惧ⅠB類(近い将来における野生での絶滅の危険性が高い)に指定されています。



海岸に打ち上げられた様々なごみ



上陸してくるアカウミガメの親子の安全保護と生態調査研究が現在も続けられています。観察をされる方は、環境保全にご協力ください。